
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第 2 3 号

平成 3 0

(2 0 1 8)

年 度

2 0 1 9

序

本書は、宮崎県埋蔵文化財センターの概要と平成30年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターは、昭和57年（1982年）10月、宮崎市神宮の地に宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして発足して以来、国・県・西日本高速道路株式会社等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに、出土遺物の整理、保管を行ってきました。また、明らかになった郷土に関することがらをテーマ展示や出前展示、報告会等によって県民の皆様の郷土への理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用、教育普及活動に取り組んでいるところです。

平成30年度は、都城市において都城志布志道路・都城道路関連、日向市において砂防工事関連の合計7箇所の発掘調査を行うとともに、現地調査が終了した10遺跡の資料について整理作業を実施し、このうち5遺跡について報告書を刊行しています。また、新発見の古墳や重要な古墳の確認調査と体験発掘等を行う「みやざきの古墳保護・活用事業」では、西都市百塚原古墳群や延岡市上野古墳、宮崎市広瀬村古墳などで保護のための地中レーダー探査などの調査とともに、地域向けの成果報告会等を実施しました。

普及活動に関しては、アウトリーチ活動として平成30年度から実施してきた移動展示会「土器と石器がやってきた！埋文セレクション」や埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」、当センター事業を紹介する施設公開、これまでの発掘調査の成果紹介を行う「遺跡発掘成果展2018」などを開催し、郷土の文化遺産である当センターの資料を多くの方々に知っていただくための機会の提供に努めたところです。

今後も、県民の皆様に郷土の歴史をより身近なものと感じていただけるよう、職員が一丸となり業務に取り組んで参りますので、関係各位の御理解と御協力をお願いいたします。

令和元年6月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 山元高光

目 次

I	組織・施設	1
1	組織	1
2	施設	2
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成30年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財記録保存のための発掘調査	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	7
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	7
(4)	みやぎきの古墳保護・活用事業	8
(5)	保存処理	10
(6)	収蔵整理	10
2	教育普及活動	10
(1)	移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション事業』 (文化庁補助事業) …	11
(2)	埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」	12
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	12
(4)	遺跡発掘速報展2018・遺跡発掘速報会	13
(5)	分館テーマ展示	13
(6)	出前展示	14
(7)	出前講座	14
(8)	現地説明会・調査報告会など	15
(9)	見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ	16
(10)	資料等の提供	17
(11)	職員派遣	22
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	22
(13)	広報出版物	22
(14)	ホームページ	23
3	会議・職員研修	23
(1)	各種会議等への参加	23
(2)	共同研究への参加	23
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	23
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	25

2 施設

(1) 本館（宮崎市佐土原町下那珂4019）

本館 2,656,50 m²

①管理棟・調査研究棟（鉄筋コンクリート造一部木造平屋建） 1,745.99 m²

事務室	57.76 m ²
所長室	19.86 m ²
情報処理室	33.17 m ²
会議室	78.52 m ²
休憩室	78.52 m ²
調査研究室	248.55 m ²
復元整理室	293.44 m ²
一次処理室	96.81 m ²
図面整理室	61.62 m ²
写場	64.20 m ²
暗室	12.65 m ²
一次保管室（2層）	188.00 m ²
図書室（2層）	193.88 m ²
荷捌室	43.01 m ²
その他	276.00 m ²

②整理作業棟（収蔵庫）（鉄骨造） 216.76 m²

③収蔵庫棟（鉄骨造） 693.75 m²

(2) 分館（宮崎市神宮2丁目4-4）

分館（鉄筋コンクリート造2階建て） 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室	121.20 m ²
復元整理室	148.30 m ²
保存処理室	49.30 m ²
（鉄器	22.70 m ² ）
（木器	26.60 m ² ）
研修室	143.20 m ²
事務室	41.80 m ²
展示室	150.00 m ²
器材庫	11.00 m ²
エントランスホール他	212.78 m ²

2階 774.80 m²

写場・暗室	49.30 m ²
写真保管室	35.10 m ²
図面保管室	53.10 m ²
収蔵整理室	19.30 m ²
収蔵室	564.00 m ²
特別収蔵室	54.00 m ²

Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」（講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群―遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井洋博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」刊行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82〜'91」を開催する。 脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧繭検定工場を農政企画課から所管換え。

西暦	年月日	事 項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東哇原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 6. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。10 月より東日本大震災復興支援で宮城県へ松本茂を派遣。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～ 12. 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。引き続き東日本大震災復興支援で、宮城県へ和田理啓を派遣。 特別展『みやざき発掘 100 年ーいこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（2 年目）。
2015	27. 4. 1	東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（3 年目）。本年度で派遣終了。 移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」事業でアウトリーチ活動を展開。 旧調査第一課調査研究室撤去。
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。10 月より非常勤職員 2 名となる。
2017	29. 4. 1	所長菅付和樹発令。職員 29 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で加藤徹を熊本市に派遣。
2018	30. 4. 1	所長長峯勝志発令。職員 30 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣。
2019	31. 4. 1	所長山元高光発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣（2 年目）。

Ⅲ 平成30年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成30年度は以下に記載する事業を実施した。

1 埋蔵文化財記録保存のための発掘調査

(1) 発掘調査

国・県施設、地域高規格道路やスマートインターチェンジ建設に伴う試掘・確認調査及び発掘調査を実施している。本年度は、坪谷城跡（日向市）、保木島遺跡、上高遺跡、大浦遺跡、小迫遺跡、松下遺跡、小松尾遺跡（都城市）など7箇所の本調査を実施した。

【発掘調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	坪谷城跡	日向市 東郷町 大字 坪谷	中世	曲輪状遺構 溝状遺構	土師器、国産陶器、輸入陶磁器、筭、煙管、銭貨	H30. 10. 9 } H31. 2. 8 (実調査日数 61日)	1,000 m ²	和田理啓 高村 哲	本村谷川4 通常砂防工 事
2	保木島遺跡 (第3次調査)	都城市 梅北町	縄文早期 縄文後～ 晩期 中世	集石遺構1、 土坑8、陥し 穴状遺構1、 炉穴1 土坑1、小穴 溝状遺構2	妙見・天道ケ尾 式土器、石鏃、 石匙	H30. 5. 9 } H30. 8. 9 (実調査日数 56日)	600 m ²	宇和田幹彦 今塩屋毅行 永山鏡太郎	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 金御岳工区 建設
3	上高遺跡 (第2次調査)	都城市 梅北町	縄文早期 縄文後～ 晩期	集石遺構1 土坑6 土坑3 小穴多数	押型文土器、 石鏃 黒色磨研系土器 石斧	H30. 4. 16 } H30. 7. 4 (実調査日数 44日)	500 m ²	平井祥藏 高村 哲	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 金御岳工区 建設

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
4	大浦遺跡	都城市 梅北町	縄文早期		押型文土器	H30. 7. 9 } H30. 10. 26 (実調査日数 59日)	1,600 m ²	今塩屋毅行 高村 哲 永山鏡太郎	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 金御岳工区 建設
			縄文後～ 晩期	土坑 1	中岳式土器、石 斧、石鏃				
			弥生時代		弥生土器、石庖 丁				
			古代～中 世	円形周溝墓 1、掘立柱建物 跡 7、土坑 10、 溝状遺構 1					
5	小迫遺跡	都城市 梅北町	縄文草創 期	竪穴建物跡 2、土坑 3	隆帯文土器、細 石刃、細石刃核、 槍先形尖頭器	H30. 8. 20 } H31. 3. 18 (実調査日数 127日)	2,600 m ²	今塩屋毅行 宇和田幹彦 永山鏡太郎	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 金御岳工区 建設
			縄文早期	竪穴建物跡 6、平地式建物 跡 6、土坑 31、 集石遺構 7	前平式、加栗山 式、押型文土器、 石鏃				
			縄文中～ 晩期	竪穴建物跡 40、土坑 60、 集石遺構 1	春日式、大平式、 宮ノ迫式、市来 式、中岳式、刻 目突帯文土器、 石鏃、石斧、摩 石、石皿				
			古代～中 世	道路状遺構	須恵器、土師器				
6	松下遺跡 (第2次 調査)	都城市 志比田 町	弥生時代	竪穴建物跡	弥生土器	H30. 9. 25 } H31. 1. 25 (実調査日数 72日)	2,000 m ²	恵利武馬 加藤真理子	国道10号 都城道路 (2工区) 建設
			中世	溝状遺構	陶磁器				
7	小松尾遺跡 (第2次 調査)	都城市 乙房町	中世	溝状遺構	青磁・石製品	H30. 5. 28 } H30. 10. 3 (実調査日数 72日)	4,300 m ²	竹田享志 二宮満夫 橋本英俊	国道10号 都城道路 (2工区) 建設
			近世	溝状遺構 土坑	陶磁器				

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

【調査指導】

日 程	場所（遺跡）	所属・氏名	指導内容
平成 31 年 1 月 21 日	日向市（坪谷城）	三ヶ所小学校校長 福田泰典	坪谷城発掘調査に係る調査指導

【資料調査】

日 程	出張先	出張者	目 的
本年度は該当なし	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は10遺跡、1事業で、内訳は地域高規格道路が県土木事務所事業4遺跡・国土交通省事業4遺跡、県道改良事業が1遺跡、スマートIC事業が1遺跡、みやざきの古墳保護・活用事業が1事業4地点である。なお、本年度は整理作業の終了した5遺跡について発掘調査報告書を刊行した。

【出土遺物等整理対象遺跡一覧】

遺跡名	事業名	事業者
青木遺跡	県道木城高鍋線道路改良工事	県土整備部高鍋土木事務所
嫁坂遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区 道路整備工事	県土整備部都城土木事務所
保木島遺跡		
上高遺跡		
大浦遺跡		
平田遺跡	国道10号都城道路工事	国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
松下遺跡		
小松尾遺跡		
平底第2遺跡	高千穂日之影道路（平底地区）建設	国土交通省九州地方整備局 延岡河川国道事務所
塚原遺跡	国富スマートインターチェンジ（仮称）建設	NEXCO西日本 県土整備部高岡土木事務所

遺跡名	事業名	事業者
塚原古墳・百塚原古墳群 広瀬村古墳45号	みやざきの古墳保護・活用事業	県教育委員会

【発掘調査報告書刊行一覧】

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
245	塚原遺跡ⅡG・H・I・ J地点	国富スマート IC 建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書	後藤清隆
246	平底第2遺跡	高千穂日之影道路（平底地区）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	徳原宏樹
247	平田遺跡F地点・G地 点	一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5	橋本英俊
248	青木遺跡	一般県道木城高鍋線（青木工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	和田理啓
249	嫁坂遺跡Ⅱ	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	甲斐尚和

(4)みやざきの古墳保護・活用事業

昨年度まで実施していた重要古墳等保護活用事業において、新たに発見された古墳や重要性の高い古墳を調査し、国や県による新たな史跡指定等に向けた取り組みを進めている。また古墳の価値や魅力について県民の理解を深め、保護・継承の気運醸成を図るため、古墳のデータベースを作成するとともに情報発信や発掘体験等の保護啓発活動を実施している。

①重要古墳等の調査

平成30年度は、以下の古墳について確認調査、地中レーダー探査及び墳丘測量調査を実施した。

【確認調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者
1	広瀬村古墳 45号	宮崎市 佐土原町 下那珂	古墳	周溝	弥生土器、 土師器（古墳～中 世）	H30. 10. 22 ） H30. 11. 16 (実調査日数14日)	5.1 m ²	高橋浩子 黒木俊彦 日高広人
2	広瀬村古墳	宮崎市 佐土原町 下那珂	縄文～ 近世	縄文早期：散礫 近世：礫塚	縄文土器、弥生土 器、石器、陶磁器	H30. 11. 19 ） H30. 11. 30 (実調査日数7日)	12 m ²	

【地中レーダー探査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者
1	上野古墳	延岡市 細見町	古墳	—	—	H30. 12. 18 ∩ H30. 12. 19	約810 m ²	高橋浩子※ 黒木俊彦 日高広人
2	百塚原古墳群	西都市 大字三納・ 三宅	古墳	古墳の周溝2 消失墳の周溝10 地下式横穴墓5	—	H30. 12. 17 ∩ H31. 2. 27 (実調査日数2日)	約5,430 m ²	西都原考古博物館 ※百塚原古墳群の み

【墳丘測量調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
1	百塚原古墳群 2～5・10・ 11・15号	西都市 大字三宅・三 納	古墳	—	H30. 5. 7～5. 30 H31. 2. 27 (実調査日数12日)	—	高橋浩子 黒木俊彦 日高広人
2	上野古墳	延岡市細見 町	古墳	—	H30. 6. 4、6. 26～7. 9 (実調査日数6日)	—	
3	松本古墳群 12号	西都市 大字清水	古墳	—	H30. 6. 5～7. 2 (実調査日数12日)	—	
4	永野古墳3号	西都市 大字三納	古墳	—	H30. 6. 7、7. 6 (実調査日数2日)	—	
5	広瀬村古墳 7・8・11号	宮崎市 佐土原町 下那珂	古墳	—	H30. 12. 4～12. 10 (実調査日数4日)	—	

②古墳のデータベース作成（悉皆調査）

県内に所在する古墳については、国指定古墳 936 基、県指定古墳 941 基（指定解除除く）、市町村指定古墳 22 基、陵墓参考地 4 基、未指定古墳 430 基、記録保存された古墳 1,242 基の計 3,575 基が確認されている。このうち平成30年度は、国指定古墳や未指定古墳について、現状の把握とGPSによる位置情報の蓄積および墳丘規模の計測作業を行った。本年度は、562 基について実施し、その結果を順次、データベースにまとめている。

【データベース作成（悉皆調査一覧）】

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
川南町	川南古墳群（国指定・未指定）、国光塚古墳（未指定）、尾花塚古墳（未指定）	45	日高広人 高橋浩子 黒木俊彦

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
高鍋町	持田古墳群（国指定）	45	日高広人 高橋浩子 黒木俊彦
西都市	西都原古墳群（国指定等）、茶臼原古墳群（国指定・未指定）、常心塚古墳（国指定）、松本塚古墳（国指定）、千畑古墳（国指定）、上宮古墳（未指定）	163	
新富町	新田原古墳群（国指定・未指定）	180	
宮崎市	生目古墳群（国指定・未指定）、蓮ヶ池横穴墓群（国指定）、広瀬村古墳（未指定）	81	
国富町	本庄古墳群（国指定）	48	

(5) 保存処理

普及資料課では、出土した金属製品や木製品について管理や保存処理を行っている。本年度は、1遺跡の木器の処理を実施した。

【木器保存処理実施の遺跡】

遺跡名	主な器種	保存処理
塚原遺跡	木製品（杭）など	トレハロース含浸処理法にて処理

(6) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成30年度は、登録作業により67箱の圧縮となったが、本館より56箱を分館に移送したため、年度末における収蔵量はコンテナ8,405箱となった。

② 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成30年度は、コンテナ334箱を搬入した。分館移送分との集計で、コンテナ14,750箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館における平成30年度の実績は19遺跡、コンテナ221箱である。登録累計255遺跡、コンテナ6,800箱となった。本館における同年度の実績は5遺跡、コンテナ334箱であり、登録累計99遺跡、コンテナ3,475箱となった。よって、平成30年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、354遺跡、コンテナ10,275箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成30年度は1,666冊の受け入れがあり、合計収蔵数は80,511冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

平成30年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業として30年度から32年度までの3カ年行う移動展示会「土器と石器がやってきた！埋文セレクション」を主要事業として実施した。埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」は第3日曜日開催で年6回行い、「遺跡発掘速報会」も9月に行った。11月は「施設公開」を文化財保護強調週間中の4日に分館で行った。発掘調査の成果を公開する分館の常設展示では、埋文講座との関連展示など、テーマ展示を年間3回実施し、常設展示の更新につとめた。平成30年度の分館入館者は6,801名であった。



(1) 移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』事業（文化庁補助事業）

埋蔵文化財センターの業務紹介と時代ごとの解説や遺物の展示、セレクション講座や関連イベントの実施、「宮崎県の考古遺跡ガイドブックー県北編ー」の作成・配布など、埋蔵文化財の保護を啓発するため県内の4会場で開催した。

- ① 名称：移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』
- ② 主催：宮崎県埋蔵文化財センター
- ③ 共催：美郷町・美郷町教育委員会 宮崎大学・宮崎大学附属図書館
串間市・串間市教育委員会 小林市・小林市教育委員会
- ④ 会場・会期：西の正倉院附属棟 5月 3日（木・祝）・5月 4日（金・祝）
宮崎大学附属図書館 6月 5日（火）～7月 1日（日）
串間市中央公民館 7月 23日（月）～8月 24日（金）
小林市役所 11月 18日（日）～12月 1日（土）

⑤ 観覧者数

美郷会場：258名 宮崎会場：17,418名 串間会場：2,416名 小林会場：3,522名
総数：23,614名

⑥ 関連行事：

各会場で体験講座（石器レプリカづくり、土器文様拓本体験、土器パズル）、講演会、展示資料解説等を行った。

- (ア) 美郷会場 平成30年5月3日（木・祝）・4日（金・祝） 参加者121名
- (イ) 串間会場 平成30年8月4日（土） 参加者26名
- (ウ) 小林会場 平成30年11月18日（日）・23日（金・祝）・24日（土）・25日（日）
・12月1日（土） 参加者156名



宮崎大会場の展示



中間会場での展示資料解説



小林会場の展示

(2)埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」

近年、発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座として、年6回（5、6、7、12、1、2月の第3日曜日）、午後1時30分から午後3時まで分館研修室で講演会を実施し、関連する遺物も展示して解説を行った。また、参加者を増やす取り組みとして早期の広報活動や、報告遺跡所在地周辺の学校・団体等への参加依頼やチラシ配布、アンケートによる評価の考察、初心者にもわかりやすい考古学資料の作成等に取り組み、6回の講座に延べ211名の参加者があった。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 H30. 5. 20	「荒迫遺跡が語るもの ～古代の畠と高原スコリア～」 荒迫遺跡（高原町）	宮崎県埋蔵文化財センター 高橋浩子	13名
第2回 H30. 6. 17	「県庁敷地下に残る水田の始まり」 橘通東1丁目遺跡（宮崎市）	宮崎県埋蔵文化財センター 高村 哲	40名
第3回 H30. 7. 15	「武士の手帖～城下町「飢肥」の事情～」 飢肥城下町遺跡（日南市）	宮崎県埋蔵文化財センター 二宮満夫	53名
第4回 H30. 12. 16	「日向の戦国時代と山城の興亡」 塩見城跡（日向市）	宮崎県埋蔵文化財センター 今塩屋毅行	36名
第5回 H31. 1. 20	「シラス台地にねむる集落跡」 高樋遺跡（都城市）	宮崎県教育庁文化財課 徳田尚文氏	43名
第6回 H31. 2. 17	「古代西都のものづくり遺跡」 潮・山之後遺跡（西都市）	宮崎県立西都原考古博物館 加藤徹氏	26名

(3)埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。本年度は、文化財保護強調週間中の11月4日（日）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において終日開催した。

【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

開催日	開催場所	内 容	参加者
H30. 11. 4	埋蔵文化財センター分館	土器水洗体験、土器復元体験、土器拓本しおり体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、巨大土器と写真撮影、土器パズル等	142名



施設公開（土器水洗体験）



施設公開（土器復元体験）



施設公開（ドングリつぶし体験）

(4) 遺跡発掘成果展 2018・遺跡発掘速報会

埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、県北の遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展 2018 を、県立図書館 2 階特別展示室において開催した。また、平成 29 年度に県内で埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の成果について調査担当者が報告する遺跡発掘速報会を、県立図書館 2 階視聴覚室において行い、関連する遺物も展示した。

【遺跡発掘成果展 2018】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
H30. 9. 1 } H30. 9. 30	県立図書館 特別展示室	広木野遺跡、神殿遺跡、宮ノ前第 2 遺跡、黒荷田遺跡、山田遺跡、延岡城内遺跡、森ノ上遺跡、カラ石の元遺跡、駄小屋遺跡、赤木遺跡、板平遺跡、塩見城跡、鶴野内中水流遺跡	1, 129 名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
H30. 9. 2	県立図書館 視聴覚室	青木遺跡、小松尾遺跡、松下遺跡、保木島遺跡、上高遺跡	81 名

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年 3 回行った。一部は埋蔵文化財講座や遺跡発掘速報展などの事業との連携を図って構成した。

開催時期	開催場所	展示テーマ	展示遺跡
H30. 6. 11～H31. 3. 31	埋蔵文化財センター分館	東九州自動車道関連の遺跡	前ノ田村上第2遺跡、飢肥城下町遺跡
H30. 9. 21～H31. 3. 31	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財講座関連展示	塩見城跡、高樋遺跡
H30. 11. 27～H31. 3. 31	埋蔵文化財センター分館	県北の遺跡	宮ノ前第2遺跡、林遺跡

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も県高速道対策局関連のイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名称	場所	内容	参加者
1	H30. 9. 22	道づくりを考える女性の会交流会 in 国富	国富町総合交流センター「アリーナ国富」	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展示及び国富町内で発掘された遺跡の紹介パネルと遺物の展示	240名
2	H31. 3. 9	第7回みやざき産業祭	県総合運動公園運動広場	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル展及び遺物展示・解説、「みやざきの埋蔵文化財ハンドブック」「宮崎県の考古遺跡ガイドブック」などの配布、土器パズル	154名

(7) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて、生涯学習団体や学校を対象とした出張講座を実施している。地域の歴史や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。

	開催日	学校名・機関名	対象	内容	参加者
1	H30. 5. 8	川南町立通山小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、川南町の遺跡と遺物	44名
2	H30. 5. 16	木城町立木城小学校	6年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、木城町の遺跡と遺物	49名
3	H30. 9. 7	特定非営利活動法人みやざき男女共同参画推進機構	一般	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史	13名
4	H30. 11. 6	日之影町立日之影中学校	全校生徒	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 平底第2遺跡の報告	102名

	開催日	学校名・機関名	対 象	内 容	参加者
5	H30. 12. 11	都城市立五十市中学校	1年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、都城市(五十市地区)の遺跡と遺物	146名
6	H31. 2. 13	宮崎市立広瀬中学校	3年生	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 広瀬中学校周辺の遺跡と遺物	85名
7	H31. 2. 24	広瀬西小校区芸能文化まつり	広瀬西小3年生・一般	① 体験講座 ② 佐土原町周辺の遺跡の遺物展示	51名

(8)現地説明会・調査報告会など

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく、遺跡の現地説明会を行った。また、発掘調査が終了した遺跡について、その成果を紹介するための報告会も行った。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	H30. 12. 15	松下遺跡	都城市志比田町	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について	79名

【調査報告会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	H31. 2. 3	塚原遺跡	国富町立図書館	遺跡の調査概要及び出土遺物の説明と見学	46名
2	H31. 2. 23	平底第2遺跡	日之影町福祉館	遺跡の調査概要及び出土遺物の説明と見学	26名

【古墳巡り】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	H30. 12. 15	広瀬村古墳	宮崎市佐土原町	① 埋蔵文化財センター及び調査第三担当の仕事について ② 広瀬西小学校校区の古墳について ③ 古墳巡り ④ 整理作業体験	25名

(9) 見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

	実施日	場 所	団体名	内 容	人 数
1	H30. 4. 22	埋蔵文化財センター分館	宮崎考古学会	研修	5名
2	H30. 4. 24	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	8名
3	H30. 5. 2	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立宮崎東小学校6年生	展示見学	60名
4	H30. 5. 11	埋蔵文化財センター分館	日南市立潟上小学校3年生	展示見学	23名
5	H30. 5. 25	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立潮見小学校3年生	展示見学	102名
6	H30. 6. 20	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立檜中学校1年生	展示見学	212名
7	H30. 6. 20	埋蔵文化財センター分館	尚学館小学校1・2年生	展示見学	50名
8	H30. 6. 23	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
9	H30. 7. 28	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	8名
10	H30. 9. 1	埋蔵文化財センター分館	小林市教育委員会	展示見学・研修	17名
11	H30. 9. 5	埋蔵文化財センター分館	宮崎市観光ガイドボランティア協会	展示見学・研修	35名
12	H30. 9. 7	埋蔵文化財センター分館	宮崎男女共同参画推進機構	展示見学	13名
13	H30. 9. 9	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
14	H30. 10. 5	埋蔵文化財センター分館	みやざき中央支援学校	展示見学	22名
15	H30. 10. 27	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学博物館学実習	展示見学	18名
16	H30. 10. 28	埋蔵文化財センター分館	西米良村村所神楽保存会	研修	20名
17	H30. 11. 1	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立広瀬西小学校4年生	展示見学	45名
18	H30. 11. 11	埋蔵文化財センター分館	高千穂町上田原神楽保存会	研修	45名
19	H30. 11. 14	埋蔵文化財センター分館	鉦脈社「大人の見学スコーレ」	展示見学	22名
20	H30. 11. 16	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立倉岡小学校3・4年生	展示見学	60名
21	H30. 11. 16	埋蔵文化財センター分館	宮崎民俗学会	研修	5名
22	H30. 11. 19	埋蔵文化財センター分館	新富町八幡保育園	展示見学	34名
23	H30. 12. 8	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	5名
24	H31. 2. 16	埋蔵文化財センター分館	宮崎縄文研究会	研修	10名
25	H31. 2. 25	埋蔵文化財センター分館	横町さくら保育園	展示見学	23名
26	H31. 3. 3	埋蔵文化財センター分館	九州神楽ネットワーク	研修	46名
27	H31. 3. 3	埋蔵文化財センター分館	九州縄文研究会	研修	51名
28	H31. 3. 4	埋蔵文化財センター分館	宮崎民俗学会	研修	4名
29	H30. 6. 20～22	埋蔵文化財センター本館	宮崎市佐土原中学校2年生	職場体験学習	2名

	実施日	場 所	団体名	内 容	人 数
30	H30. 7. 5～ 6	埋蔵文化財センター本館	宮崎西高等学校附属中学校	職場体験学習	3名
31	H30. 8. 30～31	埋蔵文化財センター本館 及び分館、県立図書館	平成30年度県庁インターンシ ップ	インターンシ ップ	5名
32	H30. 11. 7～ 9	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立広瀬中学校	職場体験学習	3名
33	H31. 1. 23～29	埋蔵文化財センター本館	障がい者職場体験支援事業	職場体験実習	2名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、平成30年度は館内利用21件、館外貸出21件、掲載許可14件であった。

【館内利用】

	利用日	遺跡名・利用資料名	利用目的
1	H30. 4. 5	塩見城跡、高鍋城跡 [中世瓦・近世瓦]	資料調査
2	H30. 7. 25	牧内第1遺跡 [台石]	資料調査
3	H30. 8. 16～ H30. 8. 17	板平遺跡（3・4次）、平峰遺跡（1～3次）、大窪第1遺跡、妙見遺跡 [高 坏・鞆羽口]	資料調査
4	H30. 9. 8	寺崎遺跡 [古瓦]	資料調査
5	H30. 9. 8	矢野原遺跡、山田遺跡、音明寺第2遺跡、東畦原第3遺跡、東畦原第2遺 跡、西畦原第2遺跡（3次）、東畦原第1遺跡（1次）、勘大寺遺跡（2次）、 牧内第1遺跡、赤木遺跡（3次） [石器]	資料調査
6	H30. 9. 20	曾井第2遺跡 [木製品・陶磁器・瓦・瓦製品・石製品]	資料調査
7	H30. 10. 22	飫肥城下町遺跡 [茶入・茶入蓋等]	資料調査
8	H30. 12. 2	尾花A遺跡、吉野第2遺跡 [縄文土器]	資料調査
9	H30. 12. 16	山田遺跡 [石器]	資料調査
10	H31. 1. 17	船塚遺跡 [円筒埴輪底部片等]	資料調査
11	H31. 1. 19～ H31. 1. 20	野首第2遺跡、東畦原第3遺跡、東畦原第2遺跡、音明寺第2遺跡、高野 原遺跡第5地点、春日地遺跡第2地点、赤木遺跡第8地点、長菌原遺跡、 上ノ原遺跡、勘大寺遺跡（2次） [石器]	資料調査
12	H31. 1. 24～ H31. 1. 25	山田遺跡 [石器]	資料調査
13	H31. 2. 12 H31. 2. 18	車坂城西ノ城跡、様屋敷遺跡、八幡遺跡、野首第1遺跡（2次）、旭2丁 目遺跡 [茶入]	資料調査

	利用日	遺跡名・利用資料名	利用目的
14	H31. 2. 20～ H31. 2. 21	尾花A遺跡、布平遺跡、笹ヶ崎遺跡、大窪第1遺跡、右葛ヶ迫遺跡〔縄文土器・石器〕	資料調査
15	H31. 3. 3	塚原遺跡〔縄文草創期土器・石器・土製品〕	資料調査
16	H31. 3. 4	尾平・檜原遺跡、白ヶ野第3B地区遺跡、竹ノ内遺跡、杉木原遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡、古城遺跡、五ヶ村遺跡、北牛牧第5遺跡、野首第1遺跡、野首第2遺跡（2次）森ノ上遺跡、岡遺跡（7次・第15次）、俵石第2遺跡、駄小屋遺跡〔トロトロ石器〕	資料調査
17	H31. 3. 4	駄小屋遺跡、森ノ上遺跡、山田遺跡、野首第2遺跡〔旧石器時代石器・縄文早期土器・石器〕	資料調査
18	H31. 3. 4～ H31. 3. 5	右葛ヶ迫遺跡、西下本庄遺跡、下耳切第3遺跡〔土師器・須恵器・弥生土器〕	資料調査
19	H31. 3. 11～ H31. 3. 12	熊野原遺跡、西下本庄遺跡、尾花A遺跡〔土器・石包丁〕	資料調査
20	H31. 3. 17	矢野原遺跡、高野原遺跡、野首第2遺跡〔石器〕	資料調査
21	H31. 3. 24	門川南町遺跡、山田遺跡、中畑遺跡〔縄文晩期土器〕	資料調査

【館外貸出】

	期 間	貸出資料名	数量	利用目的	貸出機関名
1	H30. 4. 1 ～ H31. 3. 31	野添遺跡〔ササゲ属種子炭化物・粟種子炭化物〕	30	文化交流展示「海の道、アジアの路」（平常展）において展示	九州国立博物館
2	H30. 4. 13 ～ H30. 6. 29	前ノ田村上第2遺跡、蔵田遺跡、塚原遺跡、竹ノ内遺跡、宮ノ東遺跡、市納上第4遺跡、筆無遺跡、山田遺跡、王子原遺跡、笹ヶ崎遺跡、下田畑遺跡、中山遺跡、山崎上ノ原遺跡、平畑遺跡、尾立第2遺跡、内野々第4遺跡、平峰遺跡、山内石塔群、下別府一字一石経塚、野首第2遺跡、学頭遺跡、屋敷遺跡、山ノ口原遺跡、赤木遺跡、蔵座村遺跡〔剥片尖頭器・磨製石鏃・スクレイパー・石錐・砥石・石皿・茶臼・局部磨製石斧・磨製石剣・砥石転用紡錘車等〕	137	平成30年度企画展Ⅰ「石が人を創った～石と人の文化史～」で展示	西都原考古博物館

	期 間	貸出資料名	数量	利用目的	貸出機関名
3	H30. 4. 19～ H30. 4. 23	学習キット [縄文時代]	100	第6学年の授業で使用	宮崎市立 西池小学校
4	H30. 4. 23～ H30. 4. 25	堂地東遺跡、鬼付女遺跡 [土器]、学習キット [旧石器]	6	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
5	H30. 4. 24～ H30. 4. 27	学習キット [縄文・弥生・古墳]、土器片、石錘、瓦片	164	第6学年の授業で使用	西都市立 妻北小学校
6	H30. 4. 28～ H30. 5. 6	学習キット [縄文・弥生・古墳]	164	第6学年の授業で使用	西都市立 穂北小学校
7	H30. 5. 7～ H30. 5. 9	学習キット [旧石器]	75	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
8	H30. 5. 21～ H30. 5. 23	学習キット [縄文]	100	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
9	H30. 5. 29 } H30. 12. 20	平畑遺跡、尾花A遺跡 [滑石製浮子・舟形軽石製品・舟形土製品]	3	台湾新北市立十三博物館「東亜海島文化特展」に出展	西都原考古 博物館
10	H30. 6. 4 } H30. 6. 6	学習キット [弥生]	43	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
11	H30. 6. 12 } H30. 9. 30	野首第1遺跡、塚原遺跡、本城跡、山崎下ノ原第1遺跡、広原第1遺跡、竹ノ内遺跡、吉牟田遺跡、延岡城内遺跡、飫肥城下町遺跡、陣ノ口遺跡 [軽石鳥製品・鶏を模した水滴・ミミズク土笛・狐土製品・鳥餌播り鉢・磁器製馬鞍・馬歯・三田青磁皿・相馬焼碗・鷲皿・亀形つまみ付蓋・「聞かざる」土製品]	19	特別展「共に生きたもの～ムシと動物の考古学～」で展示	西都原考古 博物館
12	H30. 6. 25 } H30. 6. 27	学習キット [古墳]	21	大学の講義で使用	南九州大学 長津宗重氏
13	H30. 7. 27 } H30. 7. 30	堂地西遺跡、平畑遺跡、堂地東遺跡、熊野原遺跡C地点 [剥片尖頭器・局部磨製石斧・石鎌・石匙・打製石斧・磨製石斧・爪形文土器・隆帯文土器・貝殻条痕文土器・中溝式土器等]	19	学園木花台南2丁目自治会の文化講演会で使用	長津宗重氏

	期 間	貸出資料名	数量	利用目的	貸出機関名
14	H30. 9. 5 } H30. 12. 18	平峰遺跡(1～3次)、鳩藪遺跡[船形軽石製品・有孔円板・管玉・常滑焼壺]	7	平成 30 年度国際交流展「海山に宿る神々～日韓の祭祀遺跡～」に出展	西都原考古博物館
15	H30. 9. 6 } H30. 10. 10	野首第2遺跡 [押型文土器]	1	コレクションギャラリー展「西都原台地の歴史Ⅱ 縄文時代」に出展	宮崎県立西都原考古博物館
16	H30. 9. 7 } H30. 9. 10	尾花A遺跡、赤坂遺跡、湯牟田遺跡、八幡第2遺跡、下耳切第3遺跡 [砥石・石包丁・石斧・土製勾玉・弥生土器壺・磨石・須恵器・耳環・刀子・鉄鏃]	33	博物館講座「小丸川流域の考古学」で使用	宮崎県総合博物館
17	H30. 10. 5 } H30. 10. 12	広木野遺跡 [須恵器坏・須恵器埴瓶・土師器甕・磨石・遺構外砥石]	7	「どこでも博物館 in 五ヶ瀬」で使用	宮崎県総合博物館
18	H30. 10. 12 } H30. 10. 19	学習キット [縄文時代]	100	大学での模擬授業で使用	宮崎産業経営大学 柴田博子氏
19	H30. 10. 23 } H31. 1. 22	曾井第2遺跡 [陶磁器・木製品・石製品・瓦]	26	平成 30 年度特別企画展「ハイジとメイジ～発掘調査からみた廃仏毀釈と明治維新～」に展示	鹿児島市立ふるさと考古歴史館
20	H30. 12. 20 } H31. 3. 17	国光原遺跡、老瀬坂上第3遺跡、野首第2遺跡、権現原第1・第2遺跡、下耳切第3遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡、倉岡第2遺跡、竹ノ内遺跡、山田遺跡、分蔵遺跡、老瀬坂上第3遺跡、藤山第1遺跡、音明寺第1遺跡、中床丸遺跡、岡遺跡(15次)、大窪第1遺跡、塚原遺跡、尾花A遺跡、王子原遺跡、上牧第2遺跡、天神河内第1遺跡、田代ヶ八重遺跡、妙見遺跡、阿蘇原上遺跡 [縄文土器]	76	平成 30 年度 宮崎県立西都原考古博物館 企画展Ⅱ「どきを編む～宮崎の縄文土器～」に展示	西都原考古博物館
21	H31. 1. 26 } H31. 1. 30	学習キット [縄文・弥生]	143	都於郡小・中学校合同家庭教育学級で使用	西都市立都於郡中学校

【刊行物等掲載（写真等資料提供）】

	申請日	資料名	掲載刊行物等	依頼者
1	H30. 4. 6	〔写真〕竹ノ内遺跡、学頭遺跡、笹ヶ崎遺跡、宮ノ東遺跡、中山遺跡「玉類・丸靴・硯」	平成 30 年度企画展 I「石が人を創った～石と人の文化史～」の広報	西都原考古博物館
2	H30. 5. 1	〔写真〕〔図版〕枯木ヶ迫遺跡「石塔群」石塔実測図	本郷まちづくり委員会主催のまち歩き配布資料に掲載	本郷まちづくり委員会
3	H30. 6. 20	〔写真〕八児遺跡「滑石製石鍋」	沖縄電力の Youtube チャンネル「OKINAWA Channel」での配信	株式会社沖縄映像センター
4	H30. 6. 21	〔写真〕広木野遺跡「広木野遺跡関連デジタル画像」	五ヶ瀬町広報 7月号に掲載	五ヶ瀬町立三ヶ所小学校長 福田泰典氏
5	H30. 8. 30	〔写真〕働女木遺跡「瀬戸内系の土器」「在地系の土器」	『三股町史』に掲載するため	三股町教育委員会
6	H30. 9. 28	〔写真〕曾井第 2 遺跡「遺跡遠景」「A 区掘立柱建物跡群検出状況」「5 号井戸跡」「5 号井戸跡被覆縦板検出状況」「六地藏幢」「石列 B 検出状況」「1 号土坑」「2 号土坑」「溝状遺構」「D 区経石検出状況」	平成 30 年度特別企画展「ハイジとメイジ～発掘調査からみた廃仏毀釈と明治維新～」の展示パネルへの利用のため	鹿児島市立ふるさと考古歴史館
7	H30. 11. 27	〔写真〕東畦原第 1 遺跡（3 次・4 次）「基本層序」ほか	企画展 II「どきを編む～宮崎県の縄文土器～」の展示会広報に使用するため	西都原考古博物館
8	H30. 11. 28	〔写真〕中尾遺跡「小溝状遺構群の空中写真」「小溝状遺構群の土層断面」「小溝状遺構群の検出状況」「小溝状遺構群の埋土を除去した状態」	『季刊考古学』146 号に掲載するため	株式会社雄山閣
9	H30. 12. 16	〔写真〕竹ノ内遺跡「岩偶」	佛教大学文学部歴史文化学科『学術財研究』第 1 集に掲載するため	公益財団法人京都府埋蔵文化財センター 小池寛氏
10	H31. 2. 1	〔デジタルデータ〕飢肥城下町遺跡「茶入」	県立西都原考古学物館紀要第 15 号に掲載するため	西都原考古博物館 谷口晴子氏
11	H31. 2. 12	〔写真〕山崎上ノ原第 2 遺跡・山崎下ノ原第 1 遺跡「調査区全景」「竈形土器」〔写真〕平峰遺跡「須恵器」「28 号竪穴建物跡」	韓国・忠清南道歴史文化研究院刊行『日本の中の百済－九州地域』に掲載するため	宮崎県教育庁文化財課 甲斐貴充氏

	申請日	資料名	掲載刊行物等	依頼者
12	H31. 2. 20	[写真] 塩見城跡「塩見城跡から日向灘を臨む」	『九州の中世』に掲載するため	西都原考古博物館 堀田孝博氏
13	H31. 2. 20	[写真] 牧内第1遺跡「台石」	学術書『食べ物の民俗考古学』に掲載するため	物質文化研究所 和久井文明氏
14	H31. 2. 28	[写真] 下那珂遺跡「虺龍文鏡」神殿遺跡「小形仿製鏡」	『東アジアの銅鏡と弥生社会』に掲載するため	株式会社 同成社

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

派遣期日	依頼者	内容	派遣職員
H31. 1. 15～16	中山間・地域政策課	「日南海岸周辺地域地元交流会」講演依頼	赤崎広志
H31. 3. 18	延岡市教育委員会	延岡城石垣石材調査指導	赤崎広志

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

実施日	場 所	講 師	内 容	参加者数
H31. 1. 25	埋蔵文化財センター 本館	上峯篤史氏（京都大学白眉センター）	「石器の観察・実測と記述について」	35名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

発行年・月	広報出版物
H30. 6	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第22号 平成30（2018）年度
H30. 9	移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション！』関係 宮崎県の考古遺跡ガイドブック 県北編
H31. 3	平成31年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
H31. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」21号

(14) ホームページ

本年度は美郷町、宮崎市、串間市、小林市における移動展示会「埋文セレクション」や分館での施設公開、埋蔵文化財講座、本館における整理作業員の募集など各種の広報にホームページを活用した。また、分館におけるテーマ展示の情報や本館における発掘調査の情報も随時掲載するとともに、館内に掲示する写真をホームページに掲載した写真とリンクさせ、広報活動の充実を図った。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会ほか主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

日程	内容	開催地	出席者
H30. 5. 31～ 6. 1	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	広島県広島市	長峯勝志
H30. 6. 13	宮崎県地方史研究連絡協議会総会・研修会	宮崎県宮崎市	山田洋一郎
H30. 12. 6～12. 7	国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	広島県東広島市	松林豊樹
H30. 10. 9～10. 17	文化財担当者専門研修 「保存科学 I (金属製遺物) 課程」	奈良県奈良市	加藤真理子
H30. 1. 29～ 1. 30	埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	熊本県熊本市	徳原宏樹

(2) 共同研究への参加

所外の研究者や機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

日程	内容	参加者
本年度は該当者なし	—	—

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

日程	内容	参加者
H30. 5. 22～ 5. 24	地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習	黒木俊彦
H30. 5. 29	足場の組み立て等の業務に係わる特別教育	今塩屋毅行、加藤真理子

日 程	内 容	参加者
H30. 5. 7 / 5. 11	救急救命講座（心肺蘇生法・AED操作法・応急手当）	総務課・調査課・普及資料課の職員
H30. 6. 4～ 6. 5	第二種衛生管理者受験準備講習	二宮満夫
H30. 8. 5	第二種衛生管理者免許試験	二宮満夫

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成 8 年 3 月 29 日
教育委員会規則第 5 号

改正

平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号
平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号
平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号
平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号
平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。
(1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
(2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
(3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
(5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
(6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第 4 条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

(1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
(2) 予算の執行及び決算に関すること。
(3) 文書の収受、発送及び保存に関すること。
(4) 公印の管守に関すること。
(5) 施設及び設備の管理に関すること。
(6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

(1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
(4) 前 3 号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
(5) 第 1 号から第 3 号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

(1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
(2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副 主 幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要なに応じ、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日
	2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。)
	4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。)
	2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
	4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。

(4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。

(5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第 11 条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第 2 号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第 12 条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)

2 宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則（平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号）

この規則は、平成 12 年 1 月 20 日から施行する。

附 則（平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号抄）

(施行期日)

1 この規則は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。

附 則（平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号）

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号）

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号）

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別記

様式第 1 号

第 10 条関係)

様式第 2 号

(第 11 条関係)

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

案内図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171 (代表・総務課)

0985-36-1172 (調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 佐土原駅から車で10分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で8分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮2丁目4-4

TEL 0985-21-1600 (普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日 年末年始(12月28日～1月4日)

特別整理期間

入館料 無料

E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 宮崎神宮駅から徒歩で10分

綾・国富・平和が丘行き宮崎交通バス

博物館前バス停から徒歩で2分





文差する歴史と神話
みやざき発掘100年

宮崎県埋蔵文化財センター

〒 8 8 0 - 0 2 1 2 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地

T E L 0985-36-1171・1172 F A X 0985-72-0660

E - mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp